

給食時間の学習指導案（食堂での全体指導）

1 題材名 「いちじくについて知ろう」

2 題材設定の理由

時津町は、びわや巨峰・かんきつ類の栽培が盛んであり、学校給食にも取り入れている。今回、新たに町内で生産されているいちじくを使用する。馴染みの薄い果物だが、生産者のことにふれることで興味関心をもたせたいと考え、本題材を設定した。

3 本時の目標

いちじくについて、触察したりクイズに答えることで理解を深める。

4 食育の視点

町内で生産される食材について理解を深める。（食文化）

5 他教科との関連

中学部 技術家庭科 「地域の食材とその調理」

6 本時の展開

過程	学習活動及び学習内容	指導上の留意点	資 料
食前	○今日の給食にいちじくが使われていることを知る。	○今日の給食に、いちじくが使われていることを知らせる。	生のいちじく（触察用）
	いちじくについて知ろう ・いちじくの生産者のことを知る。 ・いちじくを食べたことがあるか挙手で答える。	○野田郷の米田さんが作ったいちじくであることを伝える。 ○調理前のいちじくを触察し、形やにおいなどを確かめるよう伝える。	
食事中	○味わって食べる。	○独特の食感を確かめながら食べるよう促す。	
食後	○いちじくについて知る。 ・いちじくクイズに答える。 （間違っているのはどれでしょう？） ①いちじくは江戸時代の初め、中国から長崎に伝わった。 ②米田さんのところでは、8月から11月まで収穫できる。 ③いちじくは、大きな赤い花が咲く。	（間違いは③） ・元々は薬として伝来したことを伝える。 ・ハウス栽培もされているため、比較的長く収穫ができることや出盛り期は9月中旬～10月であることを伝える。 ・いちじくは実の中に花が咲くこと、いちじくの中の小さなツブツブが花であることを伝える。（いちじくの独特な食感はこの花によるもの）	いちじくクイズ

7 指導のつながり

- ・食育だよりで、いちじくを新しく取り入れたことを知らせる。
- ・盲学校で使われている地場産物は9種類になったことを伝える。